

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立蔦淵小学校

1 自己評価書

教育目標	地域に夢と愛着を持ち、たくましく生きる蔦淵っ子の育成					
基本方針	児童の「生きる力」を育み、一人一人のウェルビーイングと包括的で持続可能な地域社会の共創を目指して、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を通して、地域とともに歩む学校づくりに努める。					
本年度重点目標	○「確かな学力」の定着と向上 ○「豊かな心」の育成と人権教育の推進 ○「たくましい心身」の育成と生徒指導の充実					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	後期のみのみ
				・具体的な対策の実施	B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・児童生徒アンケート	A	B
				・教師アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	B	C
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	D	
・児童生徒アンケート				D		
(成果と課題) ○EILSを活用し、個人の学習スピードに合わせて学びを進めることができた。 ○同じ本を二人で読み、意見や感想を交流した。 ○ふるさと学習を通して、地域の歴史やよさを知ることができた。 ●1学期より読書に親しんではいるが、評価が低い児童がいた。						
(改善策等) ・1学期の反省を生かし、読書活動の充実に努めることができた。 ・閉校までの一年間で、地域人材を活用し、地域に対する誇りや愛着の醸成に努めることができた。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	③	関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
			スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。			・教師アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
(成果と課題) ○遊子小での教育活動により、自分の思いや考えを表現しようとする意欲が高まるとともに、人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりを行うことができた。						
(改善策等) ・4月からの新しい環境にスムーズになじめるよう、引き続き遊子小での教育活動の中でも活躍の場を広げる。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○教職員や地域と連携して取り組んだ。 ○小人数なので、お互い様の精神で声を掛け合える環境づくりに努め、とてもいい雰囲気の中で仕事ができている。					
(改善策等) ・閉校に向け、今後も保護者・地域の方と連携しながら有終の美を飾りたい。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題) ○学校長が兼務のため、外部の来客・電話対応を丁寧に行い、報・連・相の落ちがないよう心掛けている。また、来校時よりも気持ちよく退校していただけるよう心掛けている。 ○学校だよりやホームページ等で無理をしない範囲で情報を発信することができている。					
(改善策等) ・地域の方に負担を掛けているが、連携しながら閉校に向けて準備を進めていきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満